



参加者へのインタビュー：片岡ヤス子さん（模擬議長）

議場の席に着くのも初めてで、良い体験と思い出になりました。議長役は進行手順が覚えられず冷や汗ものでしたが、植田議長に助けていただき、何とか大役を果たすことができました。また、行政により関心を持つようになり、議会を身近に感じることができました。関わっていただいた議員の方や関係者の皆様に感謝しています。住みやすく笑顔で過ごせる田原本町でありますことを願います。



子育て世代が住み続けたい町づくりのための支援体制について



計 絵理子さん

質問

合併する校区とそうではない校区との教育施設の格差は生まれないのでしょうか？対策はありますか？

答弁

現在、東小学校・北小学校・田原本小学校の3校の統合を進めています。南小学校と平野小学校についても可能な限り、今後建築される3校の統合校舎との格差が生まれないように、現校舎の教育環境の整備を進めていきます。

南小学校と平野小学校のトイレについては、順次、洋式の乾式便所へ改修を実施し、特別教室のエアコンも順次、設置を予定しています。

保育園のより良い活用について



森戸 佳世さん

質問

母が働けるタイミングで保育園に預けられるように一時預かりを拡大することはできますか？

答弁

一時預かり事業は、保育園3園と子育てひろば1カ所、4月から駅前のトモルテたわらもと2階に開所した小規模保育所併せて5カ所で実施しています。利用者のニーズに応えるには、より多くの施設での預かり保育の実施と定員の拡大が必要であり、子育て支援員の確保による受け入れ児童数の増加や、ICTを活用した予約方法による利便性の向上等の実現に向け、取り組んでいきます。

高齢社会に突入、施設やケアの手不足



片岡 ヤス子さん

質問

大型施設の建設が必要ではないでしょうか。

答弁

施設系、居住系の要支援・要介護1人あたり定員は全国や奈良県平均よりも高く、本町は施設サービスを利用しやすい地域であることから、施設によっては早期に入所いただけています。

なお、田原本町第9期介護保険事業計画では、施設サービスについて供給量は充足されており、新設等を計画に見込んでいないことから、介護保険サービスを提供する大型施設の建設については町では考えておりません。

女性議会を 開催しました

☎ 議会事務局 ☎ 34-2119

町議会で初となる女性議会（模擬議会）を、10月21日に田原本町と共同で開催しました。

6人の女性参加者が将来のまちづくりや福祉、教育、子育てなどについて一般質問しました。

主な質問と答弁の要旨は次のとおりです。詳細は町ホームページをご覧ください。（QRコード）



田原本町女性
議会を開催

健康づくり体制について



東口 芳子さん

質問

健康ポイント事業を廃止して別の事業へ予算を振り向けることは可能でしょうか。例えば、
①いきいき百歳体操を充実する。
②歩こう会を実施する。

答弁

健康ポイント事業は、令和7年度以降は総事業費の大幅削減と町費の軽減につながる事業として大幅な見直しをしていきます。いきいき百歳体操などの健康づくりや地域の居場所づくりは、町としても重要な取り組みとして位置付けていますが、健康ポイント事業の事業費削減分に関しては、町全体の行財政改革の観点から活用を考えていきます。

見守りボランティアと行政による見守りネットワークとの連携、必要性について



平野 淑子さん

質問

行政の具体的施策は？

答弁

町では、地域ボランティアによる見守り活動への支援のほか、地域住民と日常的に関わりがある配達業者、民間事業所、寺院などの53事業者と「高齢者見守り協定」を締結するなど、高齢者の見守り体制を強化しています。

また、居場所づくりとして、サロンやいきいき百歳体操での地域の通いの場の拡充に取り組んでいます。全ての住民が「幸せを感じられる田原本」の実現に向けて今後も取り組みを進めていきます。

幼稚園や学校給食について



中井 登志子さん

質問

スイスでは、子どもにも生産者を守るためにも少し値段が高くても地場産物を購入するという考えが伝わっています。どのように思われますか？

答弁

幼稚園、小中学校給食は保護者負担の給食費で運営しているため、一部の食材のコストが上がれば食材を減らしたり献立を変更したりなどの調整が必要になります。食育の観点からできるだけ地場産物の活用を進めています。また、現在建設を進めている学校給食センターの運用が開始されるときには田原本町産の米を使用し、米飯給食の回数を増やす予定をしています。